



# 生物多様性センター企画展 「身边にもいる外来生物」

私たちの身边には、多くの外来生物がいて、

私たちの生活や生態系を脅かしています。

身边にいるアカミミガメとアメリカザリガニも、

生態系等への被害を及ぼす生物として、

令和5年6月1日から外来生物法に基づく

条件付特定外来生物に指定されました。

今回の企画展では、

大阪にいる外来生物の生態や、

私たちの生活・生態系に

どのような影響があるのかについてお伝えします。



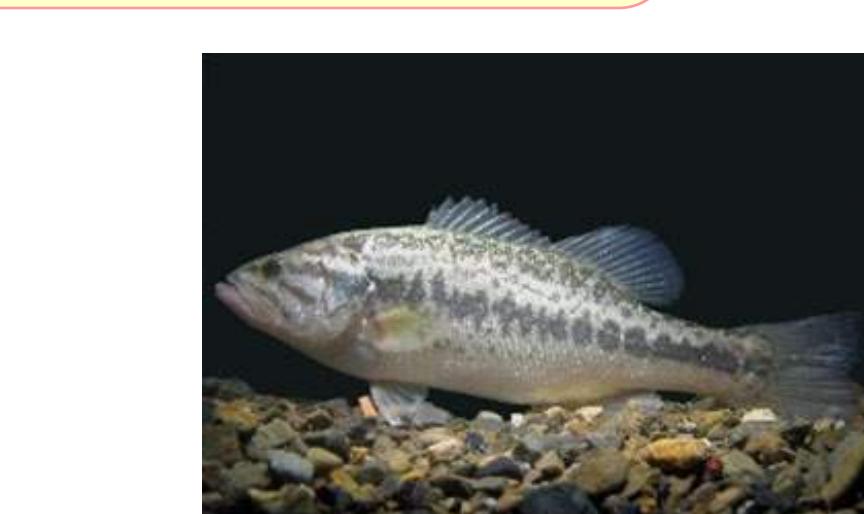
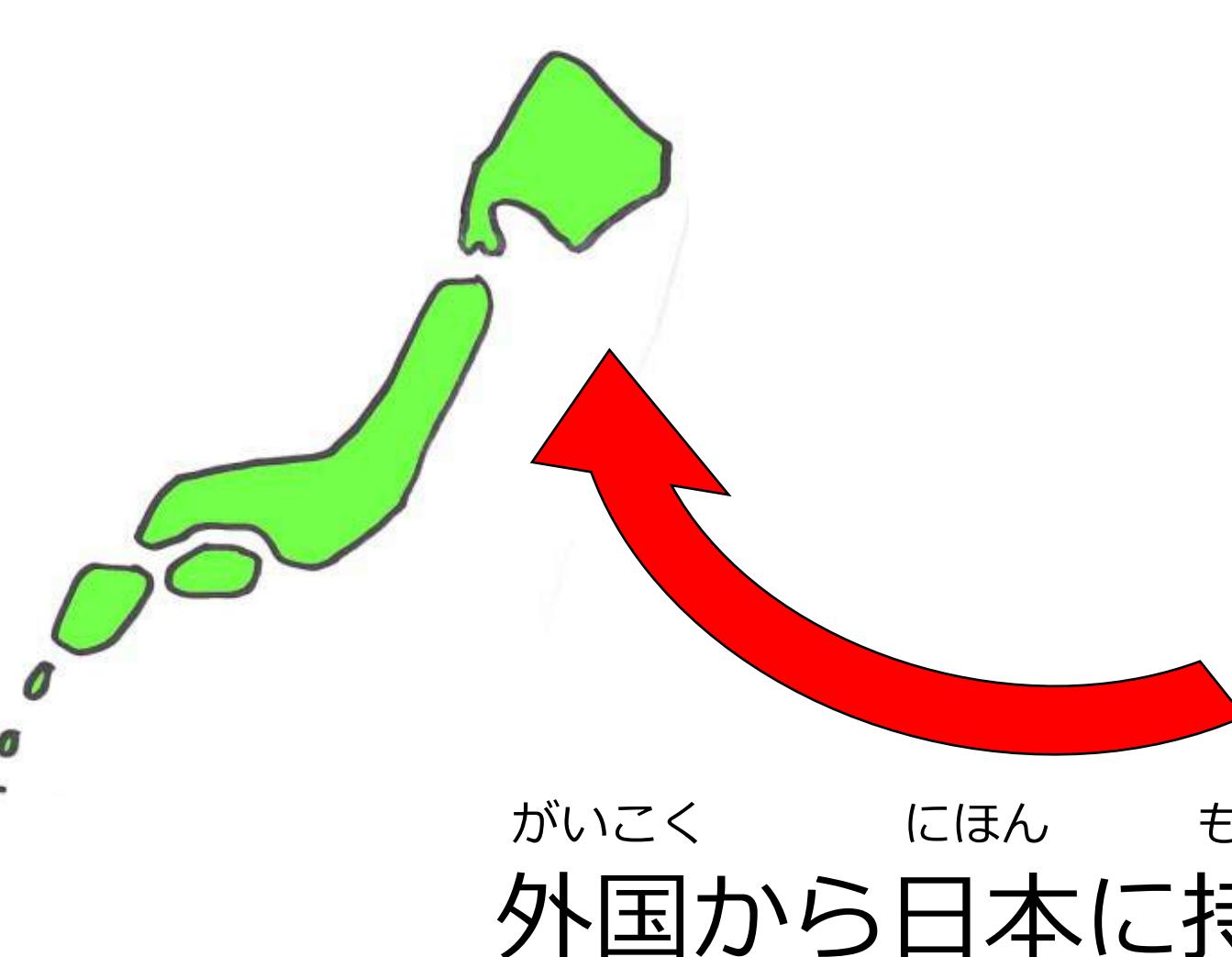
がいらいせいぶつ

# 外来生物とは

- 生物の分布域（生息している場所）は、長い年月をかけて、地形や気候、生物自身の移動能力によって決定されてきました。
- しかし、その生物の分布域を超えて、人間によって移動させられた生物が存在します。そのような生物は、持ち込まれた先で「外来生物」と呼ばれます。

## 国外外来生物と国内外来生物

### 国外外来生物

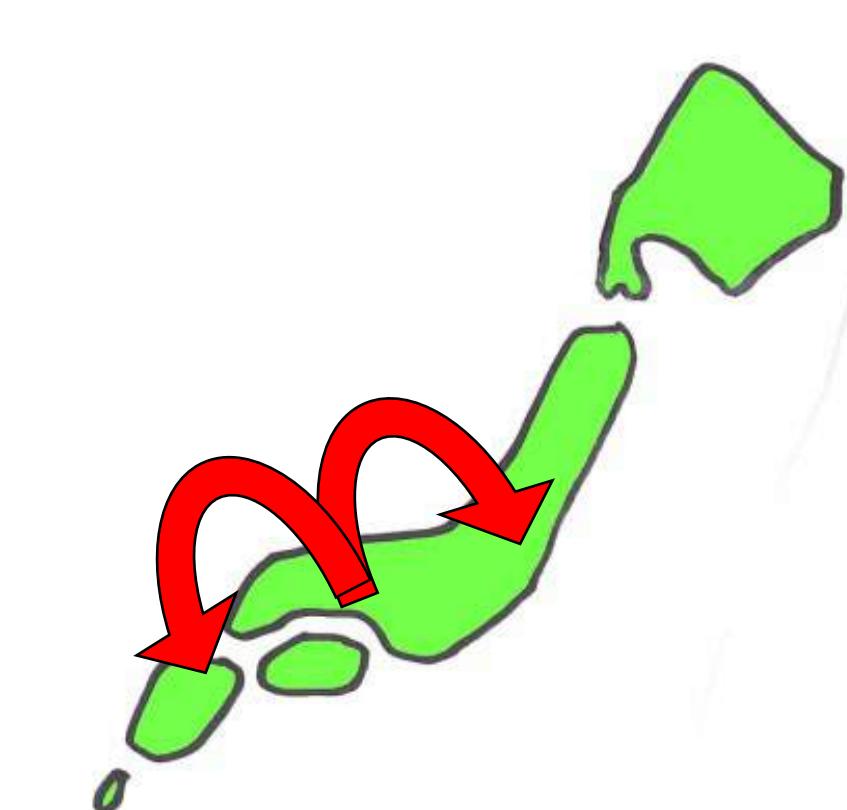


例：オオクチバス（ブラックバス）  
アメリカから日本へ持ち込まれた。

### 国内外来生物

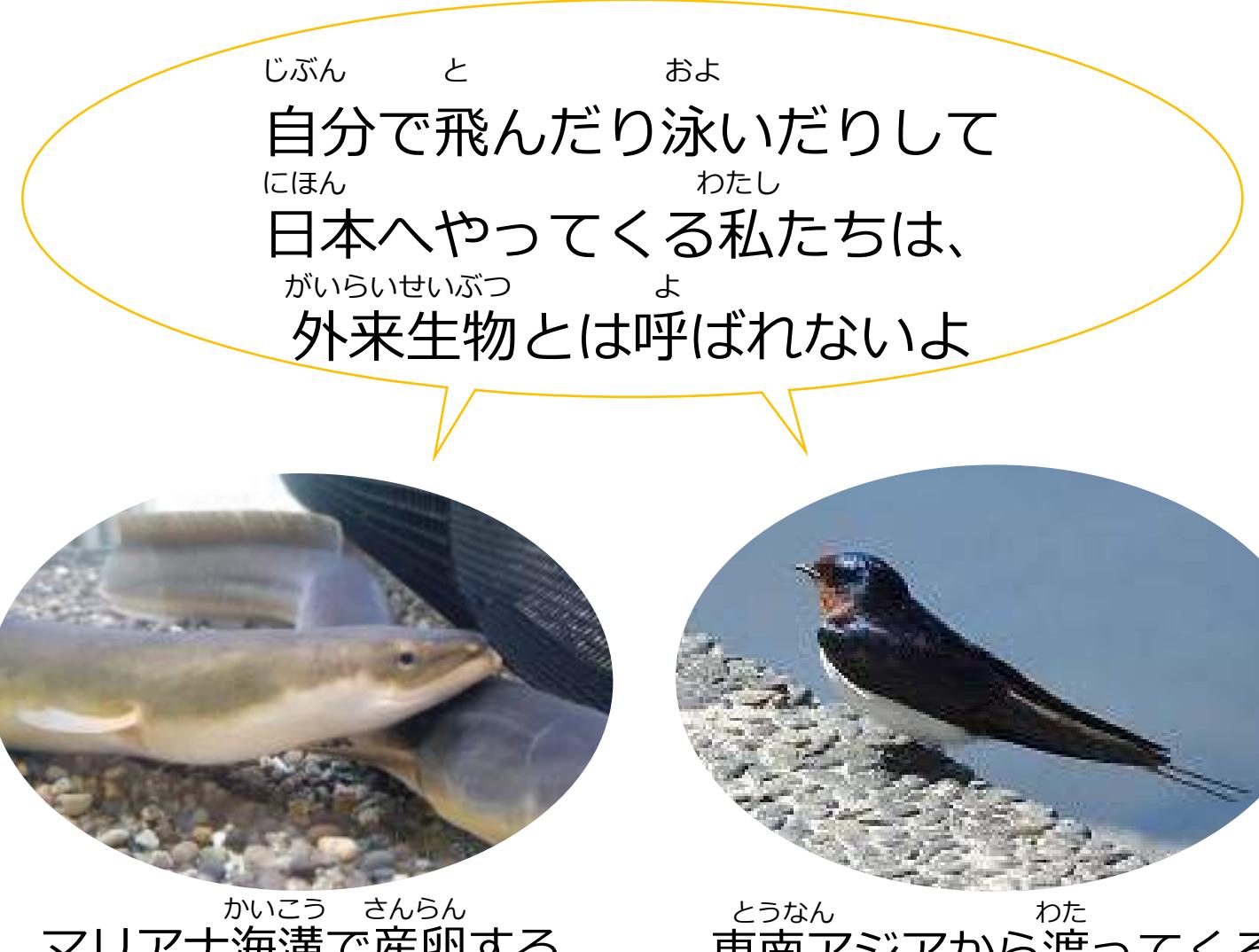


例：ハス  
琵琶湖淀川水系や福井県にしかいない魚であったが、全国各地に移入。



日本国内の他の地域から持ち込まれた

- その生物自身が移動できる範囲を超えて人間が移動させたものは、日本国内の移動であっても、「外来生物」とされ、持ち込まれた先にいる生物たちに悪い影響を及ぼす可能性があります。



## 外来生物の何が問題？

- 外来生物は、人間を傷つけたり、農作物を荒らしたり、在来生物（元々その場所にいた生物）を食べたり、すみかを奪ってしまうなどの問題を引き起こします。



ひとか  
人を咬んで  
しまうかも。。

ぶどう、  
おい  
美味しいそう。。



さくら  
き  
たまご  
う  
桜の木、卵を産  
むのにぴったり



わたし  
私たちが住み始めると、  
メダカがいなくなるの





# 特定外来生物と条件付特定外来生物

●国外外来生物のうち、とくに人間や在来生物に悪い影響を与えるものは特定外来生物法\*により**特定外来生物**あるいは**条件付特定外来生物**に指定されています。

\*「特定外来生物法」の正式名称は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」

## 特定外来生物と条件付特定外来生物

- **特定外来生物**に指定された生物（卵や種なども含まれますが、生きているものに限ります）は、運ぶことや、飼育したり、栽培することが禁止され、違反すると懲役刑や罰金刑が課せられます。
- **条件付特定外来生物**は、特定外来生物に指定された生物のうち、規制の一部がかからない生物のことです。令和5年6月1日時点で、アカミミガメとアメリカザリガニが該当します。

## 特定外来生物と条件付特定外来生物への規制内容

	具体例	特定外来生物	条件付特定外来生物
飼養	売るために飼う	×	×
	ペットとして飼う	×	○
譲渡	ペットショップ等で売る 不特定多数に配る	×	×
	飼えなくなったので友達に譲る	×	○
放出	野外に放す、植える、まく	×	×
輸入	外国から持ち込む	×	×

ペットが逃げても違法です！



\*学術研究、展示、教育等の目的で環境省大臣の許可を受けた場合はこの限りではありません。

い入れない・捨てない（逃がさない、放さない）・広げない（増やさない）ことが大切です



# 身近にもいる外来生物

## ～ミシシッピアカミミガメ～

- ミシシッピアカミミガメ（ミドリガメ）は1950年代にペットとして輸入されました。
- ため池や公園の池、川の中下流域や水路に生息し、汚れた水中でも暮らすことができます。
- 水草や小型動物を食べてしまうことが問題になっています。

### ミシシッピアカミミガメの生態

- 原産：北アメリカ
- 移入理由：ペット
- 大きさ：オス20cm、メス28cm程度
- 大阪の平野部の水辺に広く分布している。
- 子ガメの甲羅は黄色や黄緑色で、赤や黄の斑紋がある。成長すると甲羅は暗い緑色になる。
- 高水温や汚れた水に強く、都市部のコンクリート水路でも生息することができます。
- 飼育下では30年程度の寿命となる。



ミシシッピアカミミガメ  
上は子ガメ、下はメスの成体

### どうして条件付特定外来生物に？

- ペットとして寿命が極めて長く、成長すると子ガメの5倍以上の大きさとなるため、飼いきれず遺棄されてきました。
- 雜食性で、在来種の水草や水生動物を食べてしまします。ハス田ではレンコンを食害する問題も起きています。
- 在来カメと餌や日光浴の場所を取り合い、駆逐してしまいます（競合）。
- 大きな個体は攻撃的で、噛みつかれたり爪で引っ掻かれて怪我をすることがあります。爬虫類を感染源とするサルモネラ感染症の事例も知られています。



た  
は  
食べられたハスの葉



# 身边にもいる外来生物 ～アメリカザリガニ～

- アメリカザリガニはウシガエルの餌として、1927年に日本に運ばれてきました。
- 池や田んぼ、流れの緩い水路を好み、高水温や汚れた水の中でも暮らすことができます。
- 水草や水生動物を食べてしまうことが問題になっています。

## アメリカザリガニの生態

- 原産：北アメリカ
- 移入理由：ウシガエルの餌やペット
- 大きさ：12cm程度
- ペットや理科の教材、食材として利用されており、現在では大阪の平野部の水辺に広く分布している。
- 高水温や汚れた水に強く、都市部のコンクリート水路でも生息することができる。
- 陸上を移動して、数百メートル離れた水場を行き来できるため、水系に依存せず拡散する。
- アメリカザリガニは餌の種類や脱皮によって色が変わるために、在来種の二ホンザリガニと勘違いされやすいが、二ホンザリガニは北海道などの河川源流にのみ生息しているため、大阪では見つかることはない。



アメリカザリガニ



どれもアメリカザリガニ

## どうして条件付特定外来生物に？

- 雜食性で、水草や水生動物を食べてしまうほか、水草を切斷することによって、水草に産卵したり隠れ場として利用している生物に悪影響があります。
- 水中の汚れ（養分）を吸収する水草やボウフラ（蚊の幼虫）の天敵となるヤゴを減らしてしまうことで、水質の悪化や蚊の増加を引き起こします。
- 田んぼの畔に穴を開け、漏水を起こします。



アメリカザリガニによって開けられた穴



# 身边にもいる外来生物 ～クビアカツヤカミキリ～

- 近年、外来昆虫クビアカツヤカミキリにより、サクラ、ウメ、モモなど私たちが大切にしている樹木に危機が訪れています。
- 大阪府では2015年に初めて発見されて以降、被害の拡大が続いているいます。
- 2018年に特定外来生物に指定されました。
- 成虫は6～8月に発生します。

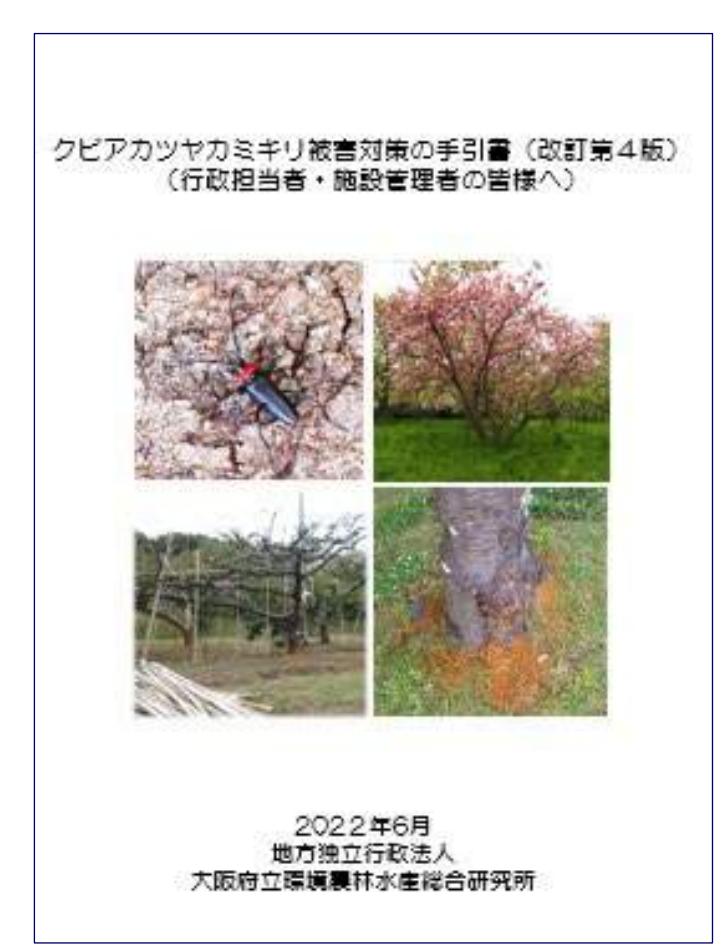
## クビアカツヤカミキリの生態と影響

- 原産：極東ロシア～中国～ベトナム北部
- 移入理由：貨物や木材製品への混入（推定）
- 大きさ：2～4cm
- 光沢のある黒い体
- 胸部は赤く、とげ状のコブを一对持つ
- 触角が長いのがオス、短いのがメス
- 幼虫は樹の中を食い荒らし、フラス（木を食べるときに発生する木クズやフンの混合物）を樹の外に出す。
- 被害が続くと、最後には木が枯れてしまう。



## 国内や大阪府内での分布状況（2023年3月時点）

- 国内では13都道府県、大阪府内では19市町村に分布が拡大しています。
- おおさか環農水研では、被害を防ぐための対策をまとめた資料を公開しています。

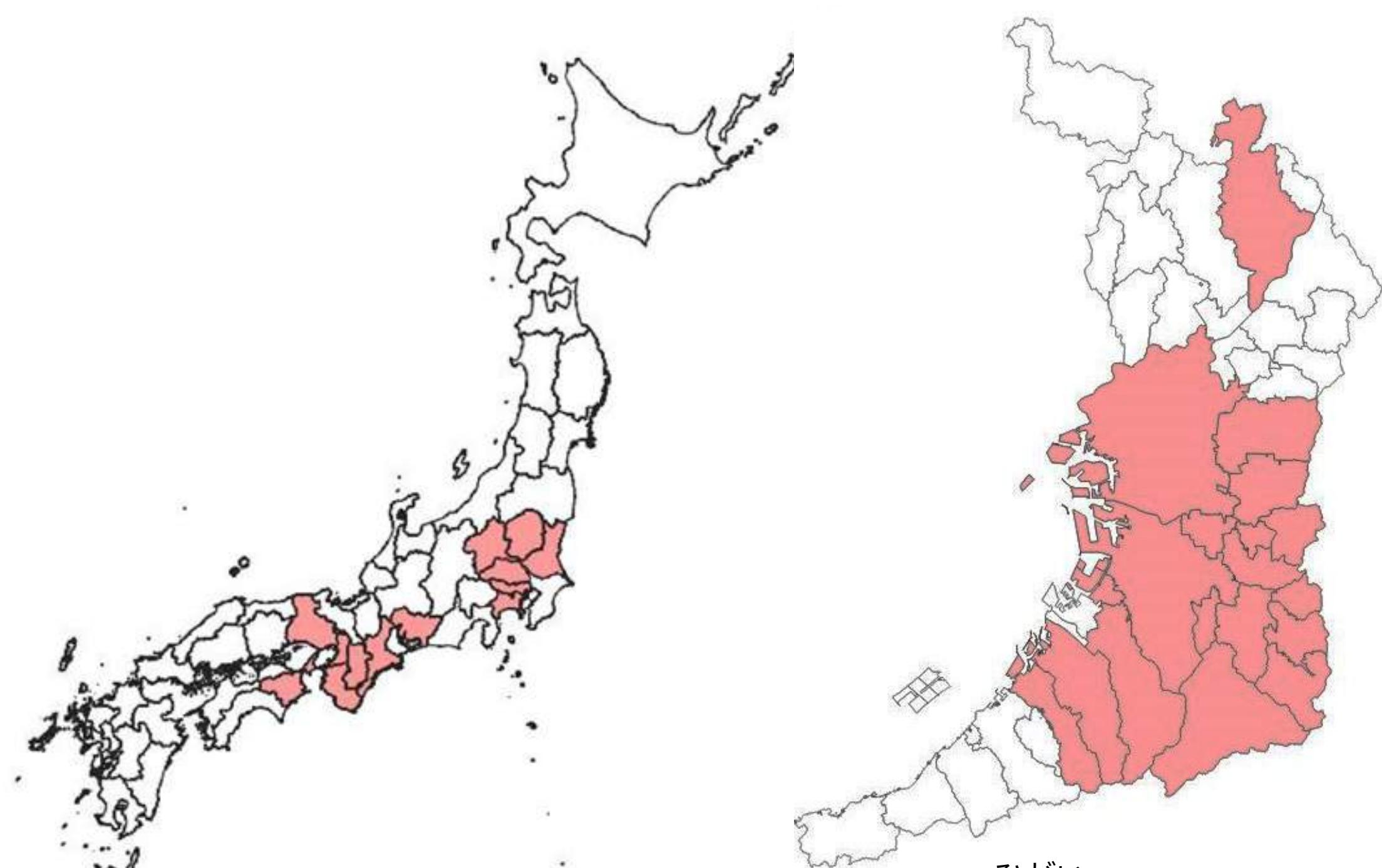


被害対策の手引書



モモ・ウメの防除マニュアル

被害木の根元にはフラスが積もる  
この様子がクビアカ被害の目印になる



● クビアカツヤカミキリの被害あり



# 身边にもいる外来生物 ～アライグマ～

- ペットとして持ち込まれたアライグマは、見た目はとてもかわいいですが、実はとてもどう猛で危険な動物です。
- 大阪では2000年頃に初めて確認され、今では市街地から山の中まで、府内のほぼ全域へと分布が拡大しています。
- 農業被害が問題となっているだけでなく、人身被害や生態系への影響も心配されています。

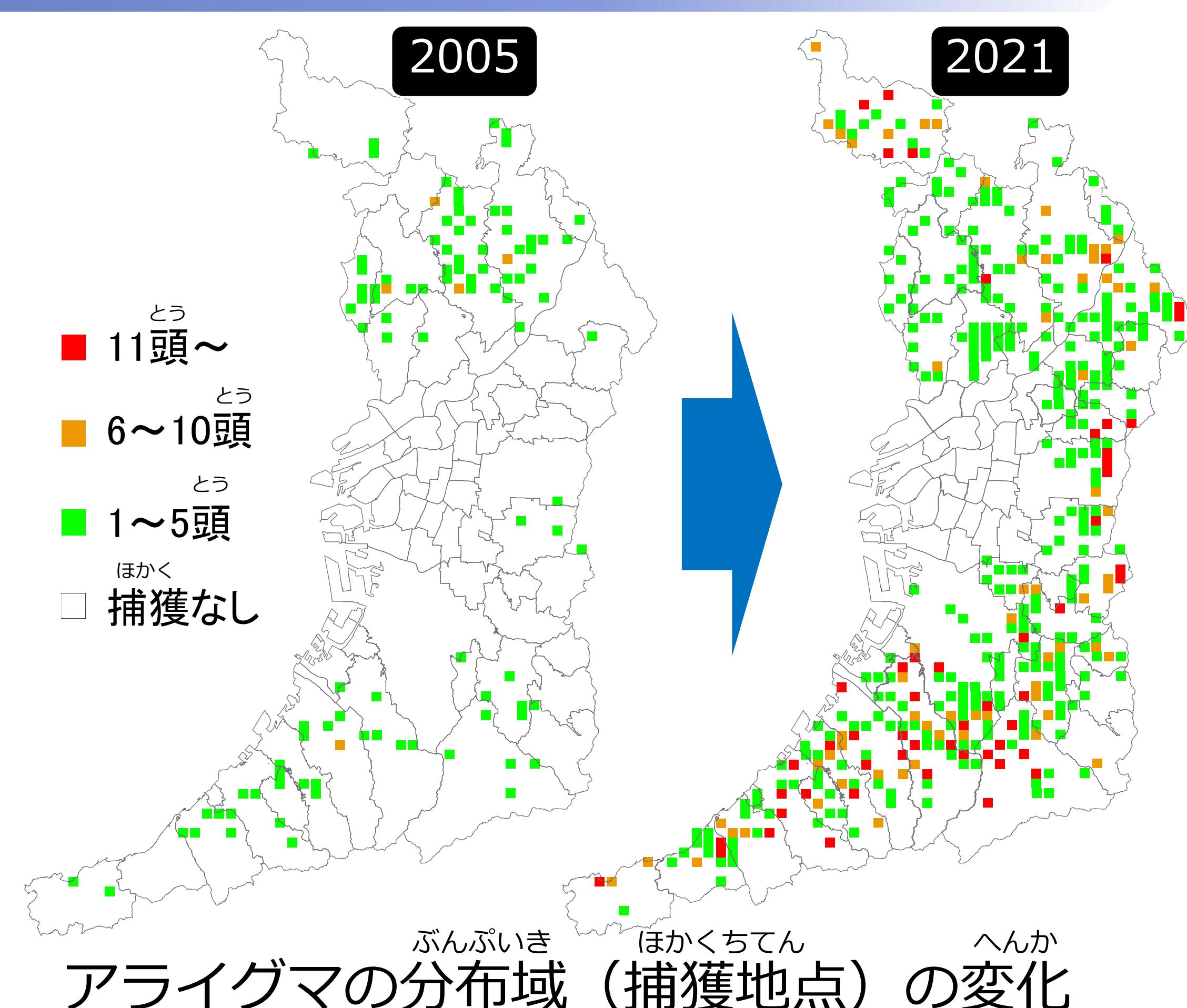
## アライグマの生態と影響

- 原産：北アメリカ
- 移入理由：ペット
- 大きさ：4~9kg、40~60cm
- 雑食性で幅広い環境に生息できる。  
(何でも食べる、どこでも棲める)
- 手先が器用で木登りも上手なので、果樹や野菜などの農作物への被害が大きい。
- 木に登って鳥の巣を襲ったり、昆虫や両生類を食べたり、在来生物への影響も大きい。
- 気性が荒いので、人が噛まれてケガをするような人身被害も生じやすい。



## 身边に広がるアライグマ

- 2001年にたった3頭だった捕獲頭数は、今では2000頭を大きく上回るほどに増加しています。
- 分布域もほぼ府内全域に広がっており、アライグマがない場所はない、という状況になっています。
- 大阪府では防除のための計画やリーフレットが作成され、対策が進められています。





# みぢか 身边にもいる外来生物 ～ヌートリア～

- 水辺に棲むヌートリアは、淀川など北部地域を中心に侵入していましたが、今では大阪南部の河川にもどんどんと分布域を拡大しています。
- 農業被害のほか、二枚貝を食べることで貴重な在来魚にも影響を及ぼしてしまいます。
- かわいく泳いで見えますが、餌付けは絶対にやめましょう。

## ヌートリアの生態と影響

- 原産：南アメリカ
- 移入理由：毛皮利用
- 大きさ：6~9kg、50~70cm
- 年数回、平均5頭を出産（増えやすい）
- 泳ぎが上手で流れのゆるい川や池に棲む。
- 主に植物食だが、貝や魚を食べることもある。
- イネなどへの農業被害、堤防への穴掘り被害、在来の貝や魚、水生植物への影響が問題となっている。



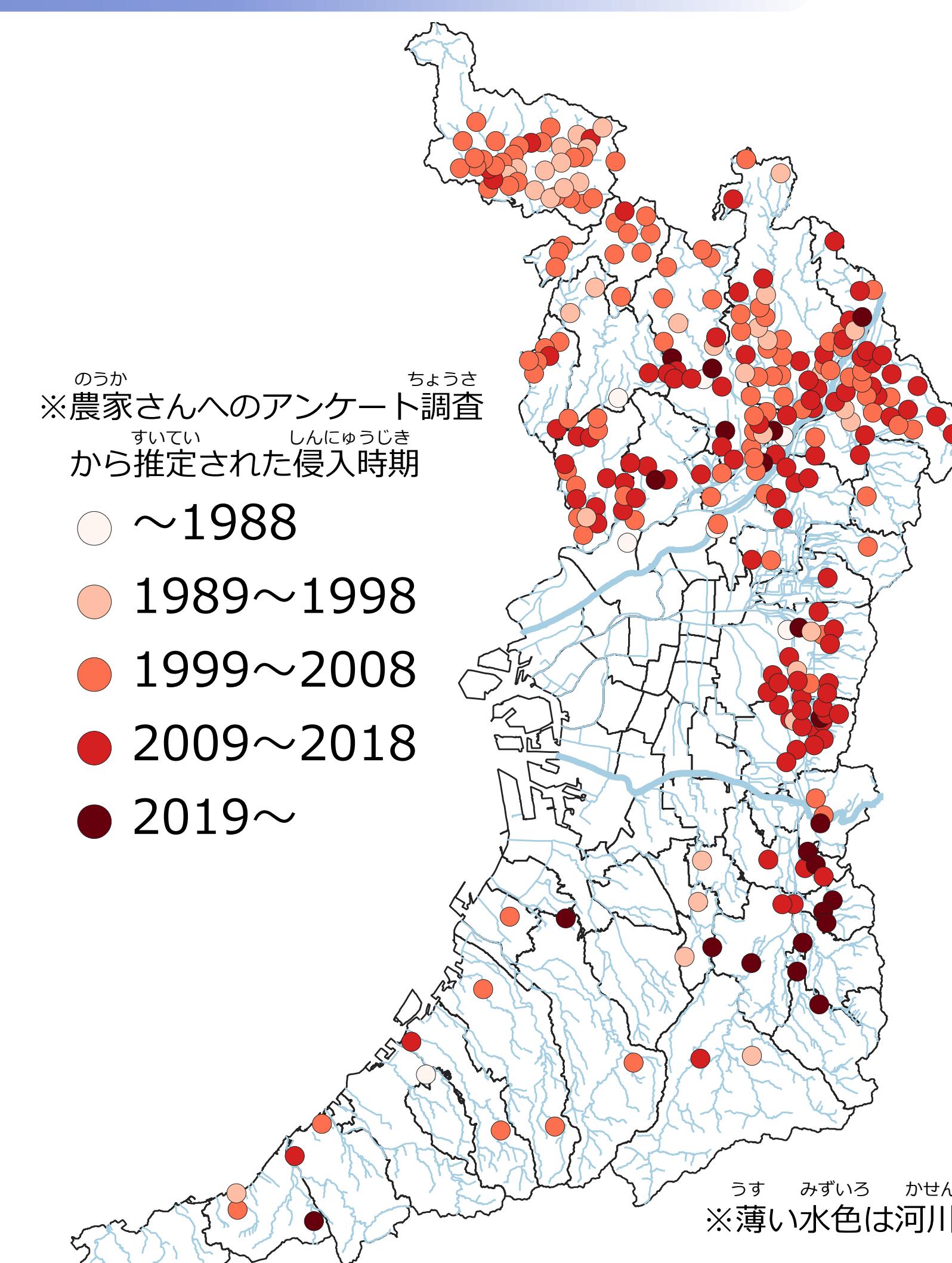
みず  
水かきのついた大きな足と、オレンジ色の  
おお  
まえば  
大きな前歯が特徴のヌートリア

## みぢか ひろ 身边に広がるヌートリア

- 府内では淀川や北部地域を中心に広く分布しています。
- 2015年頃からは東大阪・八尾市周辺で、さらに近年は南河内地域の石川流域でも分布が拡大しています。
- イタセンパラ等が卵を産む二枚貝を食べてしまうため、貴重な在来魚への影響が心配されます。
- 川や池を泳いでいる姿を見ているとかわいく思えますが、餌を与えることが大切です。



にまいがい  
た  
二枚貝を食べるヌートリア





# おおさか みぢか み 大阪で身近に見られる みぢか た とくていがいらいせいぶつ その他の特定外来生物

## ウシガエル



- 原産：北アメリカ
- 移入理由：食用
- 大きさ：10~20cm
- 池や沼などに生息する。
- 肉食性で、口に入る大きさであればほとんどの動物を食べてしまう。
- オタマジャクシも体が大きく、敵が少ないとため増えやすい。

## カダヤシ



- 原産：北アメリカ
- 移入理由：ボウフラ退治
- 大きさ：3~5cm
- メダカに似ているがグッピーの仲間で、卵ではなく仔魚を産む。
- 池や湖、流れのゆるやかな水路や河川の下流に生息する。
- 生息場所が同じメダカと競合し、駆逐してしまう。

## オオキンケイギク



- 原産：北アメリカ
- 移入理由：観賞用・緑化用
- 5~7月に開花し、多数の種をつける。
- 道ばた、河川敷、線路脇など、様々な環境に生育することができ、空地などでは大群落をつくる。
- 繁殖力が高いため、河川敷の希少な在来植物を追いやってしまうなど、在来植生への影響が危惧されている。



おおさか

# 大阪にいる特定外来生物一覧

おおさかふ とくていがいらいせいぶつ  
(大阪府特定外来生物アラートリスト)

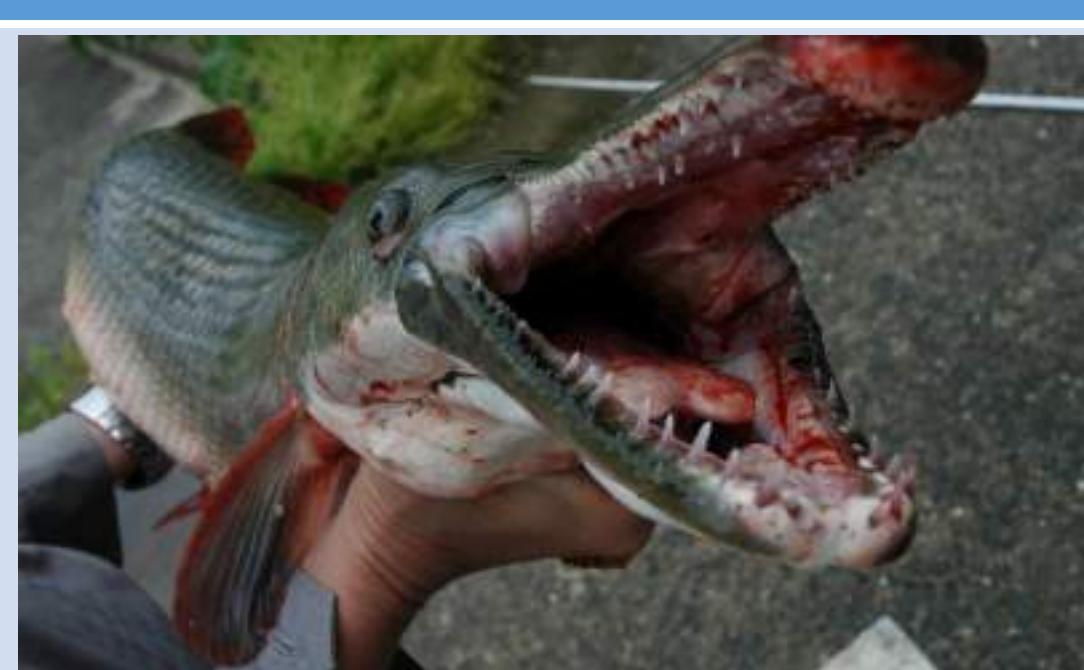
とくていがいらいせいぶつ

いちらん

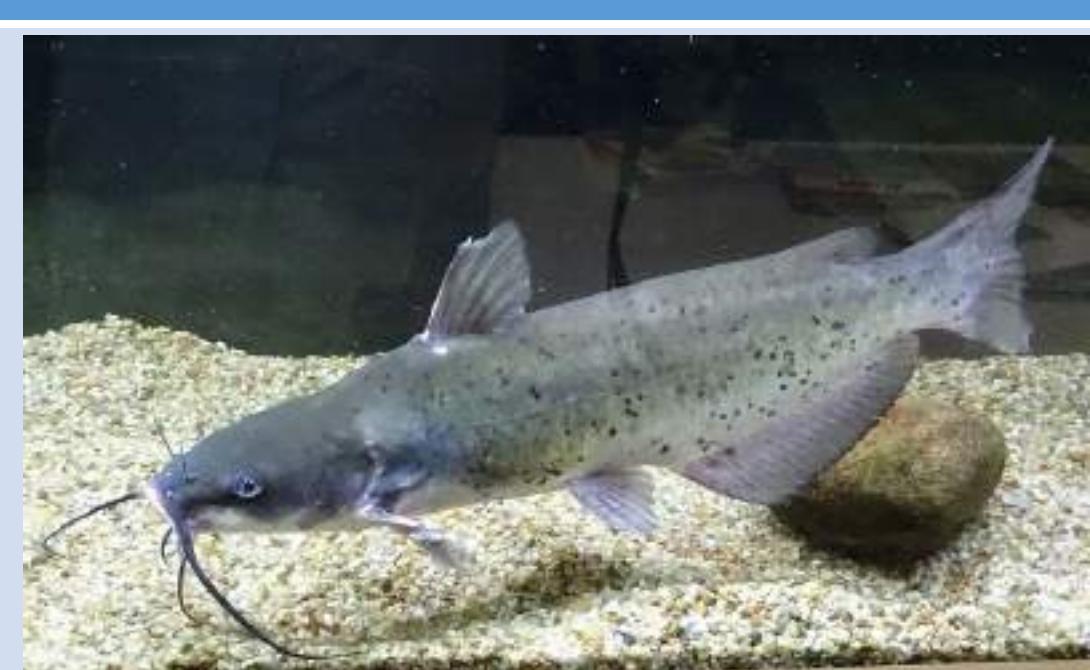
- 現在指定されている種類のうち、34種が大阪にも侵入済です。
- みなさんの近くにも、迫って来ていないでしょうか？

ぎょりい  
魚類

アリゲーター



チャネルキャットフィッシュ



オオクチバス



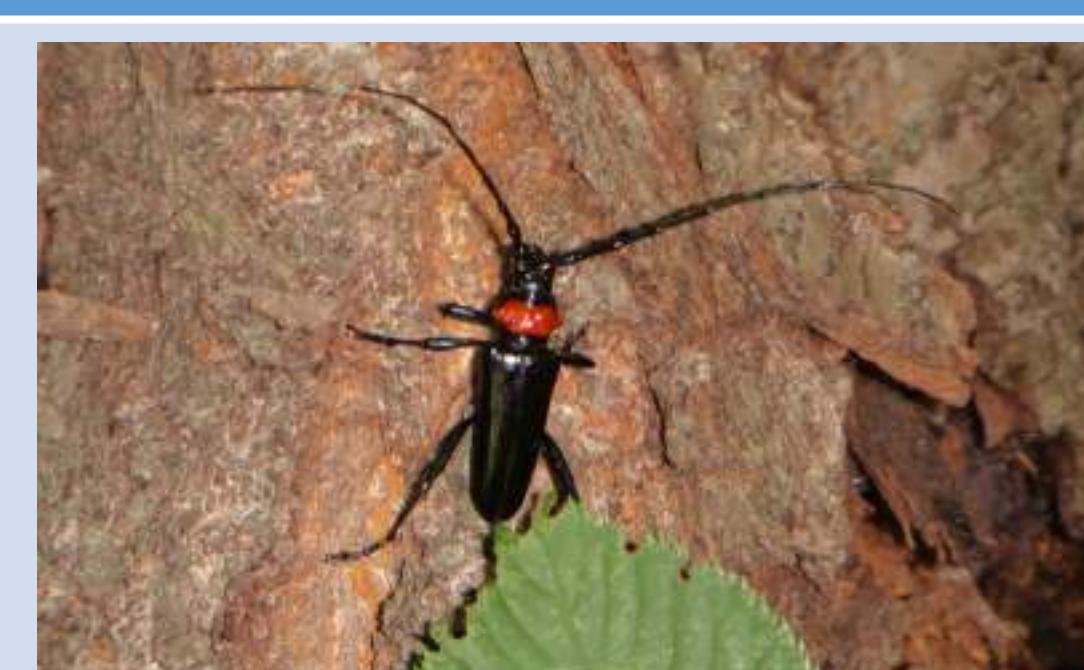
コクチバス



ほか、カダヤシ、ブルーギル

こんちゅうるい  
昆蟲類

クビアカツヤカミキリ



ヒアリ\*



アルゼンチンアリ\*



ほか、ハヤトゲフシアリ、アカカミアリ

しょくぶつ  
植物

オオバナミズキンバイ



ミズヒマワリ



アレチウリ



ナガエツルノゲイトウ



ボタンウキクサ



アゾラ・クリスター

ほか、オオキンケイギク、ナルトサワギク、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャ、  
オオフサモ、エフクレタヌキモはちゅうるい  
爬虫類

アカミミガメ



ほか、カミツキガメ

こうかくるい  
甲殻類

アメリカザリガニ

ほにゅうるい  
哺乳類

クリハラリス\*



ほか、ヌートリア、アライグマ

ちょうるい  
鳥類

ソウシチョウ\*

りょうせいるい  
両生類

ウシガエル

るい  
クモ・サソリ類  
セアカゴケグモ

ほか、ハイイロコケグモ

なんたいどうぶつ とう

## 軟体動物等

カワヒバリガイ





# 特定外来生物ではないけれど 要注意な身近な外来生物

- 特定外来生物に指定されているもの以外にも、他の生物や私たちの暮らしに大きな影響を与えるおそれのある外来生物はたくさんあります。
- 環境省はそのような生物を、特定外来生物も含めて「生態系被害防止外来種リスト」にまとめています。
- 身近で広がりつつある以下の生物たちも、このリストに選定されており、影響に注意する必要があります。

## タイリクバラタナゴ



- 原産：アジア大陸東部・台灣
- 移入理由：ハクレンなどの種苗に混入
- 流れのゆるやかな水路や河川、池などに生息する。
- 在来のニッポンバラタナゴと容易に交雑するため、純粋なニッポンバラタナゴが激減している。

## スクミリングガイ



- 原産：南アメリカ（台灣から導入）
- 移入理由：食用
- 俗称、ジャンボタニシ。大型の巻貝で、水路の壁や植物に産卵されたピンク色の卵塊が目立つ。
- 田植え後の若い稻など水生植物を食害してしまう。

## シンテッポウユリ



- 原産：台湾原産のタカサゴユリと、九州南部や沖縄などに分布するテッポウユリの交雑種
- 移入理由：観賞用
- 7~11月に白くきれいな花を咲かせる。
- 繁殖力が非常に強く、翼のある小さく軽い種子を大量につけるため、分布が拡大している。



とくていがいらいせいぶつ  
生物多様性

# 特定外来生物、見つけたらどうする？

- 特定外来生物を見つけたら、まずはその場所の管理者や行政機関に相談することが推奨されています。
- 特定外来生物には、綺麗だったり、可愛らしいと感じる種類も少なくありませんが、個体数の増加・分布の拡大を助長したり、法律違反につながる行動をとらないようにしましょう。

## 家に持ち帰ったり、餌をあげたりしないでください

- 綺麗な花が咲いていると、つい家に飾りたくなるかもしれません。しかし「生きたまま運ぶこと」が禁止されている特定外来生物を、持ち帰ることはできません。種が飛んだり、残った根から分布が広がる恐れがあります。
- いくら可愛いと思っても、餌をあげてはいけません。個体数の増加・分布の拡大につながってしまいます。



黄色い花びらが目を引く「オオキンケイギク」



餌を与えることで人馴れした「ヌートリア」

## 特定外来生物を捕まえたり、駆除する上での注意

- 特定外来生物を捕まえたり、駆除することは、鳥獣保護管理法の対象種<sup>\*1</sup>以外であれば、自由に行うことができます。
- 捕まえた特定外来生物を生かしたまま運ぶことは法律違反です。ただし、捕まえたその場で放すことは法律違反ではありません。
- たとえ特定外来生物であっても、処分する場合はできる限り苦痛を与えない適切な方法で行うこととされています<sup>\*2</sup>。
- 外来生物問題は人間のさまざまな社会経済活動によって生じています。そのことを忘れず、これ以上特定外来生物を増やすことが最も大切です。

か  
咬みつく、引っかかるなど、人  
間に危害を及ぼす可能性がある  
ため、安易に手をだすこと  
は危険を伴います。



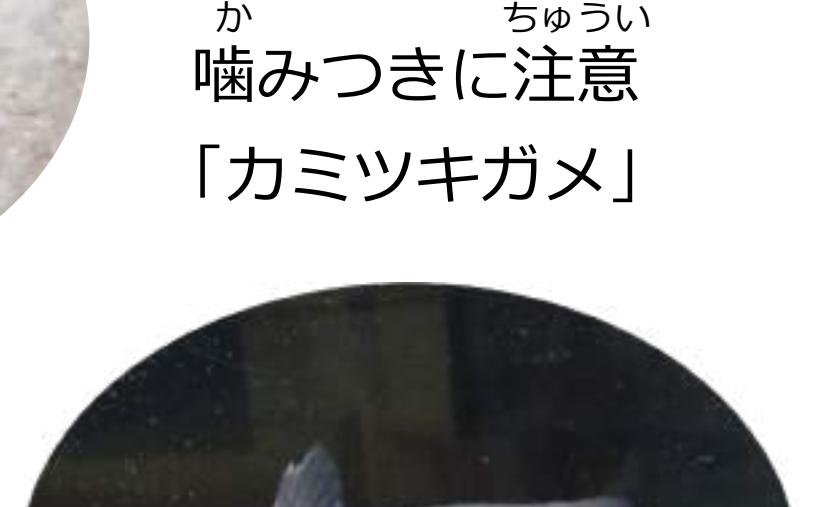
か  
噛みつきに注意  
「カミツキガメ」



さ  
刺されると危険  
「ヒアリ」



こ  
攻撃してくることもある  
「アライグマ」



ちゅうい  
ヒレのトゲに注意  
「チャネルキャットフィッシュ」

\*1野生の哺乳類や鳥類などが当ります。特定外来生物であっても、対象種を捕獲するには許可が必要です。

\*2環境省(2007)：特定外来生物被害防止基本方針より



# 外来生物から 私たちの暮らしを守るために

- 全ての外来生物を野外から根絶することはできません。
- 人間の営みが続く限り、外来生物の脅威から私たちの生活や生態系を守り続ける必要があります。
- 被害を少しでも防ぐため、外来生物を「入れない」、「捨てない」、「拡げない」ことが必要です。

## 外来生物を「入れない」

- ある生物が自然に分布していない地域に入って外来生物となったとき、生態系等にどのような悪影響を及ぼすかは予測できません。
- まずは外来生物を「入れない」ことが最も重要な対策となります。



## 外来生物を「捨てない（逃がさない、放さない）」

- 生物を飼うときは、成長したときの大きさや子どもが生まれたときのことを考え、最後まで責任をもって飼うことができるかをよく考える必要があります。
- 飼いきれず野外に放すなどをせず、適切に管理し、「捨てない（逃がさない、放さない）」ようにしましょう。



## 外来生物を「拡げない（増やさない）」

- 外来生物は、繁殖してさらに分布を広げる可能性があります。また、人間が餌や水を与えることで、繁殖力が増して他の地域に広がりやすくなります。
- 被害の拡大を防ぐためには、「拡げない」ことも重要です。





ぜつめつきぐしゅ

まも

# 絶滅危惧種を守るためにできること

- 今、当たり前に身近にいる生きものたちも、将来、絶滅しないとは限りません。
- 私たちの少しの心がけが、絶滅が心配される生きものの種類を減らし、絶滅危惧種を守ることに繋がります。

## ペットや他の場所からつれてきた生きものを放さない

- 生きものが自分で移動できる範囲を超えて、人間が持ち込んだ生きものは「外来生物」と呼ばれ、ほかの生きものを食べてしまったり、すみかを奪ってしまうなどの問題を引き起こします。



## 必要以上に捕まえない・生息場所を破壊しない

- ニホンウナギのように「美味しいから」という理由や、「めずらしくて高く売れるから」「綺麗だから」という理由で、野生の生きものを捕まえすぎることは、絶滅の危機を招く大きな原因となっています。
- さらに、開発によって自然環境を破壊しすぎることも、生きもの生息場所を奪うことにつながります。開発は私たち人間の生活のために必要なことではありますが、本当に必要か、やりすぎていなか、常に考える必要があります。



さまざまな生きものの存在に彩られた、私たちの豊かな暮らしを守るために、大阪に暮らすたくさんの生きものの命も守られる社会にしていきましょう。